

神鋼物流(株) 関東物流センター エコアクション21 環境経営レポート

2023年度

データ期間:2023年4月 ~ 2024年3月



二俣地区



東浜地区

発行日:2024年 4月 30日

目次

1. 組織の概要	・・・ 1
2. 環境方針	・・・ 5
3. 環境への負荷状況(過去3年間)	・・・ 6
4. 今年度環境目標	・・・ 7
5. 環境経営計画(2023年度)	・・・ 8
6. 環境活動の取組	・・・ 9
7. 活動実施後の環境への負荷状況	・・・ 16
8. 次年度環境目標	・・・ 17
9. 環境上の緊急事態への対応	・・・ 18
10. 環境関連法規	・・・ 19
11. 代表者による全体評価と 見直し結果	・・・ 20

1. 組織の概要①

(1) 事業者名

神鋼物流(株) 関東物流センター

取締役センター長 天野 孝則

(2) 所在地

(二俣地区) 市川市二俣新町17-2

(東浜地区) 市川市東浜1-1

(3) 環境管理責任者

総務・企画室長 小川 傑

連絡先 TEL (047) 327-3322

FAX (047) 329-0577

(4) 事業内容

一般港湾運送事業

(鋼材・アルミ地金及び建設機械に係る業務に限る)

利用運送事業・運送取次事業

保税倉庫管理、営業倉庫管理



(5) 事業所の規模

対象人数 93名

(正社員 67名 派遣社員 6名 外注社員 20名)

敷地面積 二俣地区 112,368 m²

東浜地区 30,106 m²

床面積 二俣地区 53,999 m²

東浜地区 7,489 m²

(6) 会社沿革

1954年10月 丸神海運(株)創立

1968年 4月 神鋼海運(株)に改称

2000年 4月 神鋼物流(株)に改称

認証・登録番号 :0001465

認証・登録年月日 :2007年3月30日

認証登録事業者名:神鋼物流株式会社 関東物流センター

(二俣地区、東浜地区)

所在地 :千葉県市川市二俣新町17-2

事業活動内容 :一般港湾運送事業

(鋼材・アルミ地金及び建設機械に係る業務に限る)

利用運送事業・運送取次事業、保税倉庫管理、営業倉庫管理

1. 組織の概要②

ジャストインタイムのデリバリー

関東物流センターでは、株式会社神戸製鋼所の鉄鋼物流を軸に各種鉄鋼製品およびお客さまから委託された製品の管理・保管・入出庫業務を一貫サービスで行い、また、情報発信基地としての役割を果たしています。

今日の物流の多品種化、小ロット化、スピード化に対応するには、各分野の物流機能の効率的な活用と、在庫管理の行き届いた物流倉庫は不可欠です。

当社のサービスセンター内の物流倉庫では、万全の品質管理のもと、委託された製品を「荷主のリクエストに応じ、正しい荷姿で、決められた場所に、ジャスト・イン・タイムにデリバリーする」をモットーに、お客さまの要望に応じています。



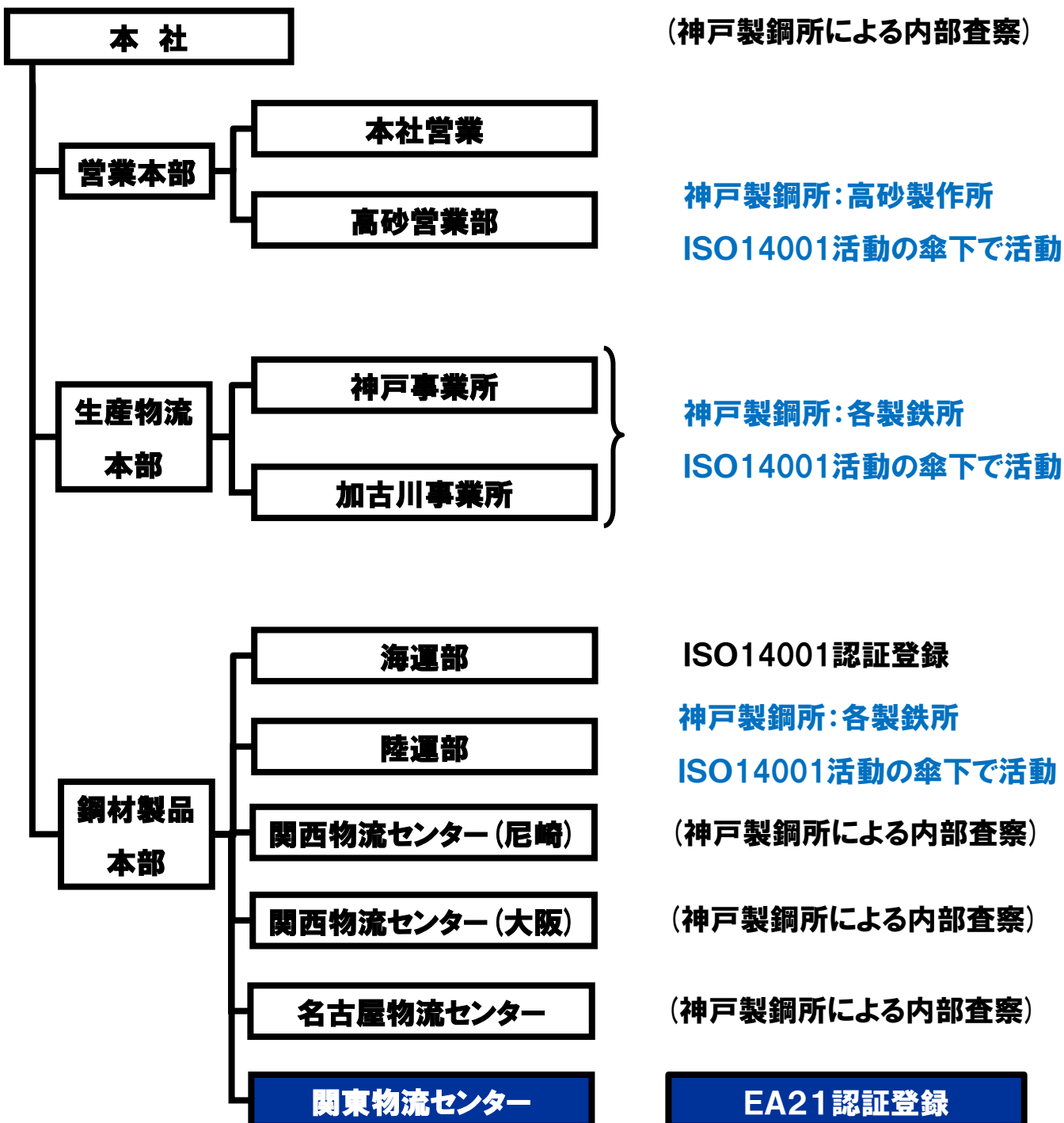
関東物流センターは関東地区の一大製品集散拠点として、わが国最大級のサービスセンターです。薄板・厚板・線材・棒鋼などの各種鋼材をはじめ、一般雑貨の保管・配車など、コンピュータによる置場管理システムにより、多様化するユーザーニーズに応じています。

特に各種鋼材の需要家からの単品納入要求に対応するため、基地における水切りから配送に至る全工程での計画・指示システムを確立しています。また、実作業におけるトラッキングシステムを開発するなど、鋼材輸送費の低減を図っています。

1. 組織の概要③

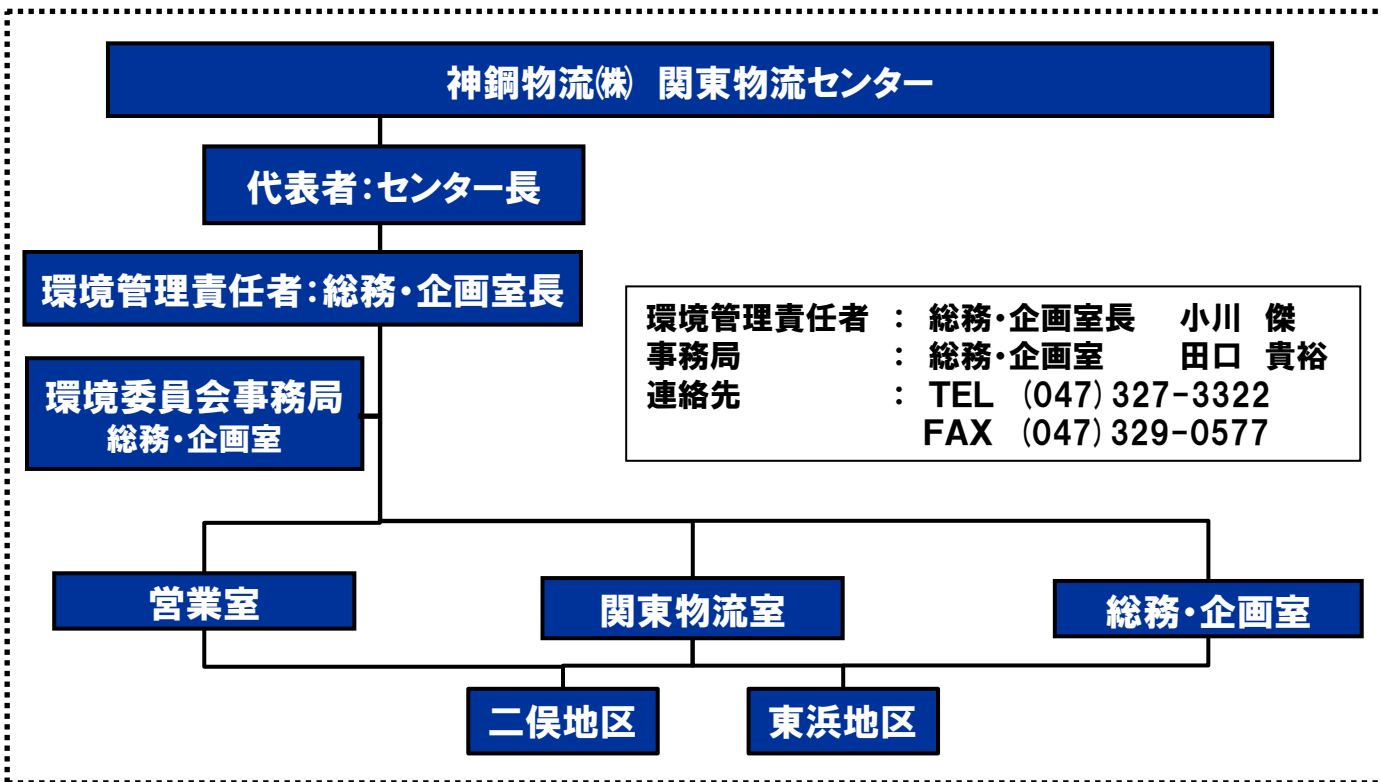
全社組織図 (2024年4月1日現在)

全社(部署毎):神戸製鋼所による内部査察



1. 組織の概要④

関東物流センター組織図 (2024年4月1日現在)



	主な責任・権限
センター長 (代表者)	当事業所の環境に関する最終的な責任を負う。 ・環境経営方針、環境経営マニュアルの制定・改訂・承認、環境管理責任者の任命(資源の提供)、代表者の見直しの実施 ・経営における課題とチャンスの明確化の実施
環境管理責任者	環境経営システムの構築・維持の為の責任権限を有する。 ・環境影響項目の評価、目的目標及び計画の承認、法的要求事項の登録製作、環境委員会の委員長、外部情報窓口。
各部門長	環境委員会のメンバーとして下記の事項の責任を持つ。 ・環境経営計画及び実施、環境不適合への是正・予防処置対応。
推進者	環境改善実施担当として下記の事項の責務をもつ。 ・担当の環境影響項目の評価、環境経営計画の推進実施・報告。
従業員	推進者と共に環境方針に準じた「環境目標」及び「環境経営計画」などについて自主的・積極的に本活動に取り組む。
環境委員会	環境に関するすべての審議体。(月1回:部門長・推進者出席)

2. 環境方針

環境方針

<基本理念>

神鋼物流株式会社 鋼材製品本部 関東物流センターの全従業員一人ひとりが、環境問題が地球的規模の広がりを持ち未来に影響を与える問題であることを認識し、全組織を挙げてあらゆる面で積極的に環境の保全に配慮すると共に更なる業務改善を進める中で社会的責任を果たしていきます。

<方針>

当事業所は一般港湾運送事業(鋼材に係る業務に限る)、利用運送事業・運送取次事業、保税倉庫管理、営業倉庫管理とこれらのサービスを通して環境負荷を低減し、更なる業務改善を推進し地球環境の保全に配慮するために次の方針項目を掲げます。

1. 当事業所の活動、サービスに係る環境経営を常に認識し、環境汚染の予防を推進すると共に環境マネジメント活動の継続的改善を図ります。
2. 当事業所の活動、サービスに係る環境関連法令、規制、協定等の要求事項を遵守します。
3. 当事業所は目的目標設定を行いその定期的見直しを行う中で、以下の項目を環境管理重点テーマとして取組みます。
 - (1) 資源及びエネルギーの削減
 - (2) 廃棄物の削減
 - (3) 節水の推進
 - (4) 自社サービスの環境配慮
4. 全従業員に環境教育、啓発活動を行うと共に、協力会社に対しても環境方針を伝え環境保全活動の理解と協力を要請します。
5. 一人ひとりが環境負荷低減活動を積極的に実践できるようにこの環境方針(宣言)を全従業員に周知すると共に社外にも公表します。

制定日 2006年 9月1日

改定日 2021年 4月1日

神鋼物流株式会社
関東物流センター
取締役センター長
天野 孝則

3. 環境への負荷状況

2020年度～2022年度の環境負荷状況 (過去3年間の実績)

項目		単位	'20年度 実績	'21年度 実績	'22年度 実績
総エネルギー 投入量	購入電力	kWh	1,067,618	1,259,065	1,271,440
	化石燃料	L	19,413	21,839	22,775
総物質 投入量	資源投入量	t	662,614	789,119	802,797
水資源 投入量	上水	m ³	4,112	4,121	6,874
温室効果 ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	518,836	612,034	617,490
総製品 取扱量	製品生産量 (取扱量)	t	702,716	772,873	793,945
廃棄物等 総排出量	再資源化	kg	53,745	69,230	75,055
総排水量	公共用水域	m ³	4,112	4,121	6,874

二酸化炭素排出係数

〈算出根拠〉

①電力 令和3年度実績調整後
R6.1 環境省・経済産業省公表

②その他

算定・報告・公表制度における
算定方法・排出係数一覧
(環境省)

区分	係数
電力(東京電力エナジーパートナー)	0.443
ガソリン	2.320
軽油	2.580
LPG	3.000

※廃棄物等総排出量は産業廃棄物を対象とする。

4. 環境目標

環境目標 (2023年度)		
環境管理重点テーマ	前年度対比	目標値
(1) 資源及びエネルギーの削減 ①電力使用量②燃料使用量	0.5%減	① 1,265,082kWh (1,271,440kWh×0.995) ② 22,661L (22,775L×0.995)
(2) 廃棄物の削減	0.5%減	74,679kg (75,055kg×0.995)
(3) 節水の推進	0.5%減	6,839m³
(4) CO2排出量削減	0.5%減	599,923kg-CO2 (602,938kg-CO2×0.995)
(5) 自社サービスの環境配慮	輸送前製品チェック実施	

環境管理重点テーマ	環境目標 (2024年度)	環境目標 (2025年度)
	前年度対比	
(1) 資源及びエネルギーの削減 ①電力使用量②燃料使用量	0.5%減	0.5%減
(2) 廃棄物の削減	0.5%減	0.5%減
(3) 節水の推進	0.5%減	0.5%減
(4) CO2排出量削減	0.5%減	0.5%減
(5) 自社サービスの環境配慮	輸送前製品チェック実施	

※廃棄物等総排出量は産業廃棄物を対象とする。

5. 環境経営計画(2023年度)

	ステップ	担当	活動計画	23年度														
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
実践活動	実践活動1	事務局	・事業活動と環境負荷物質及び自己チェック	---	→													
	・体制及び責任(推進者任命)		---	→														
	・全体日程		---	→														
	実践活動2	各室	・各室の実践活動	-----												→		
	実践活動3		・各室の実践活動の見直し又は継続	-----												→		
実践活動4	・23年度上期反省							---	→									
実践活動5	事務局	・環境経営マニュアル見直し	---	→														
中間審査準備		実践1	・環境活動レポート構成の検討1 ①事業活動 ②環境負荷物質 ③負荷自己チェック ④環境方針 ⑤環境目標 ⑥環境活動計画										-----	→				
		実践2	・活動レポート構成の検討2 ⇒マネジメントレビュー1										---	→				
			・内部チェックとレポートのまとめ ⇒マネジメントレビュー2												---	→		
		書類審査	実践3	・更新審査申込み ⇒審査用環境活動レポート提出											---	→		
				・更新審査													---	→
		反省	反省点を踏まえた来期目標の策定	・23年度全体の活動結果反省														---
			・24年度に向けた活動計画策定															---
他																		

6. 環境活動の取組①

電力使用量削減

(2022年度実績対比 0.5%減)

- ・不在時、不必要時の
倉庫天井灯の消灯実施
- ・事務所内温度管理
夏季 28℃ 冬季 20℃
- ・契約電力の見直し(減少)

その他、

- ・不在時、クレーン・詰所のエアコン
OFF
- ・事務所照明 消灯実施(昼休み時)
- ・照明LED化、庫内明かり取り増設等

2022年度実績(2022.4月～2023.3月)

→1,271,440kWh

2023年度目標(2023.4月～2024.3月)

→1,265,082kWh

2023年度実績→1,239,271kWh

2.5%減少 目標達成

入出荷量減が主因

今後の取り組み

- ①庫内作業時のクレーンソフト運転励行
- ②不要時照明OFF推進
- ③倉庫屋根更新時 明かり取り増設 等

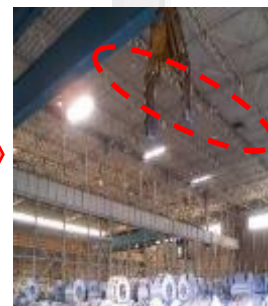
活動ポイント1

倉庫天井灯の
不要時消灯

<点灯中>



<消灯中>



活動ポイント2

事務所内温度管理

- ①室温管理
 - ②エアコン設定温度管理
- ⇒チェック表を用いて点検を実施



6. 環境活動の取組②

燃料使用量の削減

(2022年度実績対比 0.5%減)

- ・社用車燃料の削減
「アイドリングストップの推進」
- ・フォークリフト燃料の削減
「アイドリングストップの推進」
- ・社用車は全てエコ対応車を導入
- ・社用車利用の集約化

2022年度実績(2022.4月～2023.3月)

→ 22,775L

2023年度目標(2023.4月～2024.3月)

→ 22,661L

2023年度実績→16,682L

26.8%減少 目標達成

入出荷量減が主因

今後の取り組み

- ・上記活動の更なる徹底を図る
- ・環境パトロール強化を図る

＜社用車アイドリングストップ(AS)活動＞

活動ポイント1

①運行管理表に「アイドリングストップ実施」欄を設け、各室へ協力要請を実施した。



アイドリングストップ励行



6. 環境活動の取組③

廃棄物の削減

(2022年度実績対比 0.5%減)

- ・木材の有効利用(台木の裏面使用、一部交換等)
- ・廃木材をウッドチップにし、バイオマス発電の燃料として再資源化
- ・紙類の再資源化
- ・分別廃棄の徹底
(分別ルール・基準作成)
(分別ゴミ箱設置、表示)
(特定ゴミ箱にカバー取付)

2022年度実績(2022.4月～2023.3月)

→75,055kg

2023年度目標(2023.4月～2024.3月)

→74,679kg

2023年度実績→55,190kg

※廃棄物等総排出量は産業廃棄物を対象とする。

活動ポイント1

- ・廃木材をウッドチップにし、バイオマス発電の燃料として再資源化



※イメージ

活動ポイント2

- ・シュレッダーゴミ、廃ダンボールの再資源化



26.5%減少 目標達成

- ・置場見直し、3Sの積極的取り組みによる廃棄物増加

今後の取り組み

- ・会議時PC使用によるペーパーレス化の推進

6. 環境活動の取組④

節水の推進

活動ポイント

(2022年度実績対比 0.5%減)

- ・節水意識向上表示
- ・主要蛇口バルブ調整
- ・夏期はシャワーのみの使用

活動結果:活動以前から節水意識はあったが、本活動する事により、更に全従業員の節水意識が高揚した



2022年度実績(2022.4月～2023.3月)

→6,874 m³/年

2023年度目標(2023.4月～2024.3月)

→6,839 m³/年

2023年度実績→8,791 m³/年

①水道蛇口付近に
節水意識向上
表示板を掲示した。

②主要水道蛇口の
元バルブを絞った。

27.9%増加 目標未達

※原因は現在調査中

今後の取り組み

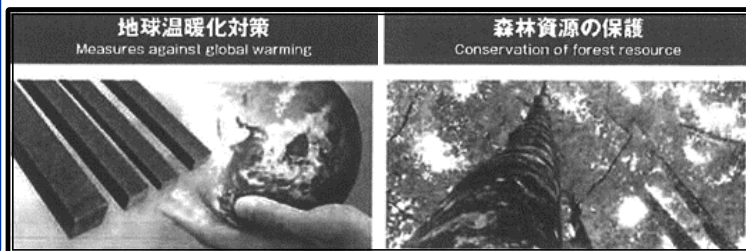
設備面での改善も検討しながら、引き続き節水の呼びかけを行う。

6. 環境活動の取組⑤

自社サービスの環境配慮

輸送前製品チェックの実施

- 1) 輸送会社へのアイドリングストップの協力要請→他社サービス
- 2) センター内にトラック乗務員専用の「運転手控室」を設置
- 3) バータ輸送の推進（帰り便車両の有効活用）
- 4) 製品置場、台木に廃プラ再生材を使用



5) モーダルシフトによる輸送効率化・環境負荷低減を促進（他部署含む）



自社船を含む支配下船50隻を運航して主に神戸製鋼所の鉄鋼原料、鉄鋼製品を輸送。1トンの貨物を1km運ぶ際のCO2排出量がトラックの1/4になる。



長距離輸送でのトラック車両不足や環境影響が生じるため、JR貨物でのモーダルシフトを実現した。

今後の取り組み

環境パトロールの強化、バータ輸送の更なる推進

6. 環境活動の取組⑥

(結果まとめ)

取組項目	2022年度	2023年度		基準比 (%)
	実績	目標	実績	
電力使用量 (kWh)	1,271,440	0.5%削減 1,265,082	1,239,271	2.5% 削減 達成
燃料使用量 (L)	22,775	0.5%削減 22,661	16,682	26.8% 削減 達成
水使用量 (m ³)	6,874	0.5%削減 6,839	8,791	27.9% 増加 未達
廃棄物 (kg)	75,055	0.5%削減 74,679	55,190	26.5% 削減 達成
CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	602,938	0.5%削減 599,923	592,061	1.8% 削減 達成
自社サービス (アイドリング ストップ,%)	輸送前製品チェック実施			目標達成

二酸化炭素排出係数

〈算出根拠〉

①電力 令和3年度実績調整後

R6.1環境省・経済産業省公表

②その他

算定・報告・公表制度における

算定方法・排出係数一覧

(環境省)

区分	係数
電力(東京電力エナジーパートナー)	0.443
ガソリン	2.322
軽油	2.619
LPG	2.990

※廃棄物等総排出量は産業廃棄物を対象とする。

6. 環境活動の取組⑦ (その他)

活動掲示板の運用



活動結果や連絡事項を掲示、従業員へ周知すると共に、従業員全員が共有意識を持って取り組める事を目的として設置しています。

神戸製鋼グループ全体での環境力向上活動

環境経営基本方針：

『グループ環境経営の実践による
企業価値向上』

－ グループの環境力向上 －

神戸製鋼グループは、環境先進企業グループとして

- ① 環境に配慮した生産活動
- ② 技術・製品・サービスでの環境への貢献
- ③ 社会との共生・協調

を実践することにより、社会的責任を果たすと共に、企業価値を向上させる

7. 活動実施後の環境への 負荷状況

項 目		単位	'22年度 実績	'23年度 実績
【総エネルギー投入量】	購入電力	kWh	1,271,440	1,239,271
	化石燃料	L	22,775	16,682
【総物質投入量】	資源投入量	t	802,797	715,935
【水資源投入量】	上水	m ³	6,874	8,791
【温室効果ガス排出量】	二酸化炭素	kg-CO ₂	617,490	589,581
【総製品取扱量】	製品生産量(取扱量)	t	793,945	727,335
【廃棄物等総排出量】	再資源化	kg	75,055	55,190
【総排水量】	公共用水域	m ³	6,874	8,791

二酸化炭素排出係数

〈算出根拠〉

①電力令和3年度実績調整後
R6.1環境省・経済産業省公表

②その他

算定・報告・公表制度における
算定方法・排出係数一覧
(環境省)

区分	係数
電力(東京電力エナジーパートナー)	0.443
ガソリン	2.322
軽油	2.619
LPG	2.990

※廃棄物等総排出量は産業廃棄物を対象とする。

8. 次年度環境目標

環境目標 (2024年度)		
環境管理重点テーマ	前年度対比	目標値
(1) 資源及びエネルギーの削減 ①電力使用量②燃料使用量	0.5%減	①1,233,074kWh ②17,941L
(2) 廃棄物の削減	0.5%減	54,914kg
(3) 節水の推進	0.5%減	8,747 m ³
(4) CO2排出量削減	0.5%減	586,633kg-CO ₂
(5) 自社サービスの環境配慮	輸送前製品チェック実施	

環境管理重点テーマ	環境目標 (2025年度)	環境目標 (2026年度)
	前年度対比	
(1) 資源及びエネルギーの削減 ①電力使用量②燃料使用量	0.5%減	0.5%減
(2) 廃棄物の削減	0.5%減	0.5%減
(3) 節水の推進	0.5%減	0.5%減
(4) CO2排出量削減	0.5%減	0.5%減
(5) 自社サービスの環境配慮	・輸送前製品チェック実施 ・アイドリングストップ	

※廃棄物等総排出量は産業廃棄物を対象とする。

9. 環境上の緊急事態への対応

地震および事業所内火災等の緊急事態を想定し、想定訓練を実施(2回/年)。

また、緊急時の迅速な対応を図るため、連絡先のカードを作成・配布し、全従業員に啓蒙活動を行っている。

1. 緊急時連絡網作成
2. 緊急事態対応マニュアル(通報マニュアル)
3. 防災用具の充実(岸壁に防災用備品倉庫設置)
4. 定期的な想定訓練の実施

2023年度実施訓練

- ①地震想定訓練 (2023年 9月 13日)
- ②火災想定訓練 (2023年 11月 8日)

◆防災用備品倉庫
(中和剤、吸着マット他備蓄)



10. 環境関連法規

訓示規定

1. 環境基本法
2. 循環型社会形成推進基本法
3. 地球温暖化対策の推進に関する法律
4. 環境配慮促進法

罰則規定

1. 浄化槽法
2. 水道法
3. 水道法施行規則
4. 建築物衛生法施行規則
5. 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
6. 家電リサイクル法
7. フロン排出抑制法
8. 消防法
9. 海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律
10. PCB廃棄物処理特別処理法

地方条例等

1. 市川市環境基本条例
2. 市川市環境保全協定書

現在、法令違反はありません。また、近隣事業所、周辺住民からの訴訟、苦情については、過去3年間一切発生していません。

近隣との環境協力

市川港開発協議会清掃参加
(二俣～東浜)



11. 代表者による全体評価と見直し結果

2023年度

<総合コメント>

23年度は日本経済は海外での紛争、中国経済の低迷、著しい円安、急激な物価上昇による消費マインドの冷え込み等の不安要因を抱えながらも、緩やかに持ち直しています。

鋼材内需については自動車以外の製造業の基調は弱く、また人手不足・資材価格高騰の影響から建設・土木部門でも需要は力強さに欠けています。海外市場では中国の鋼材増産により東アジアでの市況は低迷しています。神戸製鋼では前述の需要低迷に加え、設備更新工事等もあって、鋼材生産量は当初見込みに比して減少となりましたが、様々な施策により収益確保ができました。

環境活動におきましては概ね環境目標を達成できましたが、水の使用量については、関係者と連携し原因究明と対応をお願いします。

物流業界は2024年問題、人手不足で注目を集めていますが、より効率的に業務を進め、乗り越えていきましょう。

見直し日：2024年3月31日

神鋼物流株式会社

関東物流センター

取締役センター長

天野 孝則

代表者による経営における課題とチャンスの明確化

内部	Strengths (強み)	Weaknesses (弱み)
	倉庫、岸壁、荷役機械の所有 港湾運送事業、倉庫業免許の保有	設備老朽化に伴う設備投資コストの増加 鋼材入出庫量の低下
外部	Opportunities (機会)	Threat (脅威)
	重量物ハンドリングのノウハウ 免許を活かした営業アプローチ	コロナ影響

思いに応えるロジスティクス
神鋼物流株式会社